

# 第12回(2019年度) 經營者 環境力大賞

## 受賞理由

## 【大賞】 青山 裕史 様 (油藤商事株式会社 代表取締役)

滋賀県で廃食油リサイクル燃料、バイオディーゼルを販売している会社。創業は明治30年。青山社長はその四代目で、ガソリンスタンドの経営、LPガス配送、上下水道の配管整備など多岐にわたる。

### ＜授賞理由＞

- ◆ 家業継承当時から、自社事業が「排気ガスの原因となるガソリンや軽油を売り、洗車では大量の水や洗剤も使う、まさに環境負荷の大きい業種」ということに気づき、「ガソリンスタンドをまちのエコロジーステーションに」という思いから、様々な地域での環境活動を開始するなど、早い時期から時代の流れをいち早く察知し、早々に取組みを開始した点。
- ◆ 琵琶湖を守るための市民活動とも連携し、自社に独自のバイオディーゼル燃料（BDF）精製器を設置し、廃食油リサイクル燃料を軽油に替わる燃料として販売し、地域の企業で使用するトラック・発電機・建設農業機械などに使用されるなど、エネルギーの地域循環を支えている点。
- ◆ 自社で所有するタンクローリー車を活用して、東日本大震災や熊本地震などの被災地に燃料油を運んだ経験を活かし、企業・自治体・NGOと協定を結び有事にいち早く対応できる体制を整えるなど、社会的責任を率先して果たしている点。
- ◆ 近江商人の精神を受け継ぎ、ハンディを持った従業員には働く喜びを、資源ごみを回収することで客には利便性を、またそれが売り上げと、地域の資源の循環にもつながるという「三方よし」の商売を展開している点。
- ◆ ローカルなエネルギーを、ローカルで展開し、事業を大きくしすぎない勇気を持っている点も評価。

## 【大賞】堂上 勝己 様 (梅南鋼材株式会社 代表取締役)

顧客の要望に一つひとつ応える形で、鋼材を切断する・曲げるなど様々な形に加工して提供する、大阪西成区にある製造業の会社で、創業64年。材料調達から切断・曲げまで、無駄なく素早くノンストップで動ける社内一貫加工体制を特徴とし、トータルコストを下げることによって、価格競争や品質維持を武器に大阪のモノづくりを再度元気にしたいと、頑張っている。

### <授賞理由>

- ◆ 2010年にエコアクションの認証を取得し環境への取組みを早くから始め、環境への取組みは当たり前のこととして省エネや資源循環にも取り組んでおり、環境レポートも素晴らしいものを発行している点。
- ◆ 幹部社員と一緒に毎年事業戦略会議を行い、10年単位での中期ビジョンを構築し、それを各部門の計画や個人の目標に落とし込むようにしているなど、コツコツと堅実な経営を継続している点。
- ◆ 正社員の平均年齢28.8歳と若く、また「女性活躍リーディングカンパニー」認証取得するなど、社員を活かし、社員に愛され、社員と共に成長する企業を目指すとともに、地域の高校生を雇用するなど、多様な人材を大切に育成している点。
- ◆ いたずらに業務拡大することなく、ありふれた業種の中で独自の価値観を押し出していくことで、独自の成長を探究している点は、これまでの大賞受賞者に通じる、事業を大きくしすぎない勇気を持っている点。
- ◆ 卸販売だけの事業に不安を感じた際には加工業にも事業拡大し、それ以降ファイバーレーザーなど常に業界の最先端技術を導入して経営の発展につなげている点。

## 【大賞】永野 仁士 様 (東阪電子機器株式会社 取締役 管理本部長)

電力制御装置等の製造を行う企業で、モーター制御の指令プログラムを自社で作成しそれを基盤に組み込むなど、制御用モーターを中心に、専用基板の設計から装置製造まで顧客のニーズに合わせた製品提供を行っている会社。大学卒業後、大手電機機器メーカーで制御機器の製造・販売に携わった後、父親の会社である東阪電子機器に戻り、取締役管理本部長として、「**温故創新**」という、伝統を守りながら新しい製品やサービスの創造に努めている。

### <授賞理由>

- ◆ 中国はじめ海外へも進出し、他社との協業も進めているが、連携は自社のやりたいことのノウハウがあるかで判断するなど、決して短期的利益だけ求めるところとは組まず、先代の堅実な会社経営を継続し、「現状に胡坐をかくことなく、36年支えてくれた従業員と共に」という精神を引き継ぎ、中小企業の強みを生かした経営方針を継続している点。
- ◆ 自らの海外での現地体験から、外国人雇用を積極的に進め、彼らを労働力としてではなく、創造的な仕事を一緒にするパートナーと考えているなど、時代の潮流を先取りした点。
- ◆ 事業を大きくすることにはあまり興味はなく、働く人が頑張っただけで幸せになるためにはモチベーションを高めることも必要として、ユニークな工夫をし、働く人の意欲を高め、それを業績に繋げている点。
- ◆ 自らの環境力を、「今ある環境を俯瞰的に情報としてとらえ、リーダーが一步踏み出すことが大切。そのベースはデータと第六感」とし、AI時代でも、新しいものを生み出すのは人間であり、決めるのは人間というしっかりした経営理念を持っている点。



## 【大賞】村上 尊宣 様 (株式会社エコファクトリー 代表取締役)

輻射熱を利用した冷暖房器具の製造・販売を中心に、省エネ機器、再エネ利用機器など環境にいい製品の開発・普及、及び建築物の企画設計などを行う会社。地球温暖化防止活動環境大臣表彰の、技術開発・製品化部門での表彰、中小企業新技術・新製品奨励賞を受賞するなど、エネルギー効率を高めてCO<sub>2</sub>を削減するとともに、健康・快適性を両立するという、ハイブリッド型空調システムである輻射式冷暖房システムの技術は、高い評価を得ている。

### <授賞理由>

- ◆ 温暖化への強い危機感から、エコ住宅の開発実用化の過程で特許を取得、さらに体感効果に直接的に作用する輻射熱効果に着目して発熱体エレメントを開発実用化するなど、常に科学を理解し、それを活かして新たな技術開発を行い経営につなげている点。
- ◆ 気候変動に対する意識は非常に高く、CO<sub>2</sub>排出量最多の中国に合弁会社を設立し、アジアを中心とした事業展開を行うなど、気候変動時代を先取りした、情熱ある事業展開をしている点。
- ◆ 働くことは人生そのものという考えで、大きな分掌権限を従業員に与えることで責任感と連帯感を感じてもらおう工夫、それと併せて、従業員の大きな支えとなる家族を大切にしている雇用体系の充実にも取り組んでいる点。
- ◆ 「拡大だけが成長ではなく、事業の本質を磨き高める努力の成果のみが時代の変化に耐えうる」という信念を持ち、従業員、全国約50社の設備代理店、顧客を大切に、地に足の着いた業務の積み重ねと新たな技術開発を経営の発展につなげるという経営理念を持っている点。

**【奨励賞】 福寿 満希 様**  
**(株式会社LORANS. 代表取締役)**

フラワーギフトサービス、フラワーショップと併せてカフェも経営する若き経営者。2013年に株式会社設立、2016年一般社団設立。

フラワーショップで捨てられる花を資源としてとらえ再生紙としてリユースする活動や省エネ活動にも取り組んでいるが、仕事を始めたきっかけは、狭い意味での環境ではなく、人間環境に関心があり、特に障害のある方を積極的に雇用して、持続可能な社会づくりに貢献したいという思いから。

そうした独立して社会的課題に取り組む姿勢は素晴らしいものの、「環境力大賞」としては、もう少し、「環境」を意識した活動が欲しく、今後、さらに視野を広げた活動に期待。